



とびだせ！はばだけ！

みえふくっ子

～みえの次代を担う福祉系人材の育成～

マイスター・ハイスクール普及促進事業
三重県 令和7年度成果報告

発表内容

①三重県の事業概要と今後の展望

②取組内容の紹介

- ・明野高校・みえ夢学園高校
- ・伊賀白鳳高校・朝明高校
- ・4校で連携した取組

③総括2年間の成果と課題



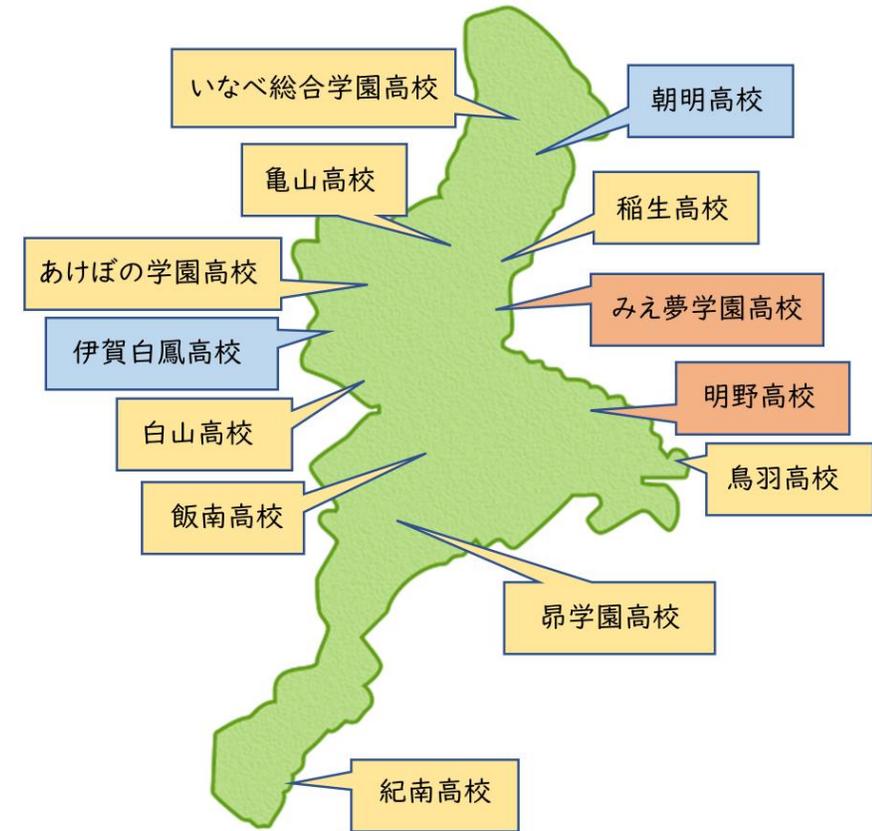
①三重県の事業概要と今後の展望

福祉に関する学習ができる高校 13校

(介護職員初任者研修実施校)

その内4校が福祉系高等学校(介護福祉士を養成)

明野高校 みえ夢学園高校 朝明高校 伊賀白鳳高校で
R6年度~マイスター・ハイスクール普及促進事業を実施



課題解決能
力の育成

福祉の
魅力発信

産業界や地域、行政との連携・学校間の連携

発表内容

①三重県の事業概要と今後の展望

②取組内容の紹介

- ・明野高校・みえ夢学園高校
- ・伊賀白鳳高校・朝明高校
- ・4校で連携した取組

③総括2年間の成果と課題





明野高校の特徴

生産科学科・食品科学科・生活教養科
(農業・食・生活分野を学ぶ専門学科)

福祉科(1学年40名・2コース制)

【社会福祉コース】

・高齢者、保育や障がい分野など幅広い社会福祉を学ぶ。

【介護福祉コース】

・介護を中心に福祉を深く学び、介護福祉士国家試験の受験資格取得をめざす。



明野高校 ～教育目標と学びの特色～

<教育目標>

○農業、衣・食、福祉の専門高校として、それぞれの分野の専門的知識・技能の習得に取り組み、卒業後に実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成

○地域産業との連携を推進し、地域から信頼されると共に、地域から必要とされる人材の育成

<福祉科では>

介護職員や看護師・リハビリ職、などの専門実践教員(PPE)による「生きた学び」を全学年の授業に取り入れ、実社会とつながる実践的な学習を進めています。

<年度ごとの達成目標>

R6

基盤確立

— 産業界と出会う —

- ・産業界との連携の見直し・強化
- ・ゼミ活動の開始
- ・地域・福祉ニーズの把握
- ・県内福祉科生徒との交流

👉 生徒：地域・産業を知り、課題を認識する

R7

取組実践

— 産業界と協働する —

- ・産業界との継続的な連携
- ・ゼミ活動の深化
- ・生徒主体の課題解決の実践
- ・県内福祉科生徒と学び合う

👉 生徒：主体的に思考し、行動する

R8

新たな展開

— 産業界へ価値を返す —

- ・産業界へ変化をもたらす取組
- ・学科横断・他学科との連携
- ・学びの発信・共有
- ・学校の魅力向上

👉 生徒：学びを社会に還元し、持続的な連携を創出する

明野高校の取組（課題解決型授業）

1
年生

課題発見・地域を知る

- 産業界と連携したPPE(専門実践教員)による福祉授業
- 地域を知る
- 多種多様な校外学習(出る)



2
年生

様々な連携・交流

- 産業界・PPE(専門実践教員)の現場を訪問し、リアルな福祉の課題や解決方法を体験的に学ぶ
- 多種多様な校内学習(招く)



3
年生

明野高校生による地域の居場所作り

- 「あけのゼミ」による課題解決型学習
- 学校×福祉×企業の実践
- 学科を越えた連携



実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材

※PPE (Professional Practice Educator) とは、介護福祉士や看護師、リハビリ職など現場で活躍する専門職

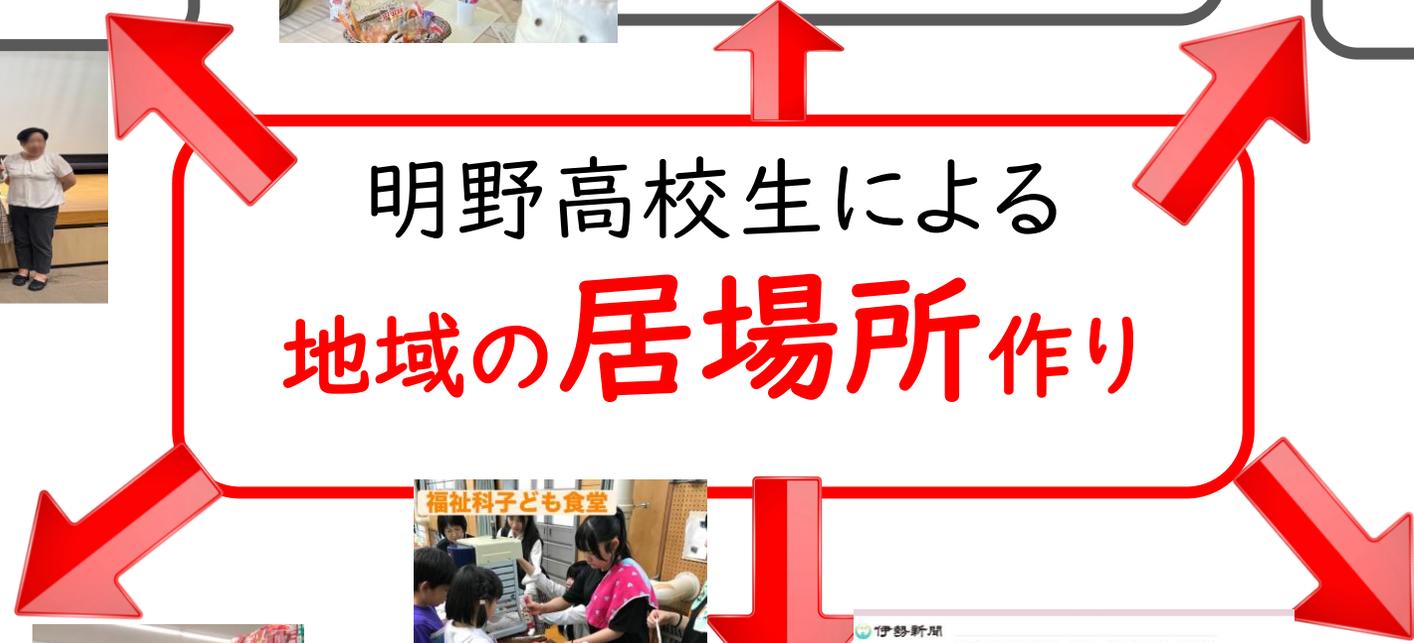
明野高校の取組 (R7年度)

高齢者



地域連携

障がい



明野高校生による
地域の居場所作り

スマート
福祉



子ども

伊勢新聞
児童招き高校生交流 伊勢・明野高が「一日児童館」三重



参加した小学2年の女兒は「お兄さんもお姉さんもすごく優しい。全部おもしろい」と笑顔をみせた。



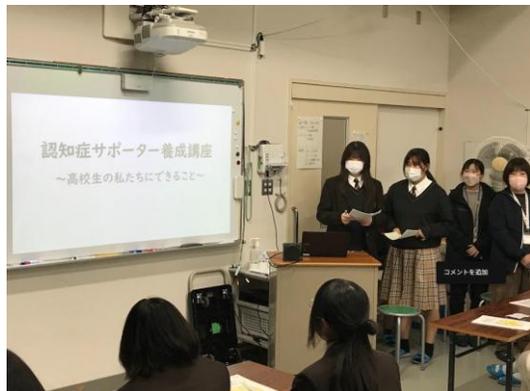
福祉の
魅力発信

明野高校の強み

産業界とつながり、生徒が
「学びを社会に返す」教育を実践
していること

産業界・地域と連携したゼミ活動の実践例

高齢者ゼミ（認知症）



認知症や家族支援をテーマに、認知症当事者・家族会や社会福祉協議会と連携し、認知症サポーター養成講座を実施しています。

生徒は今後、キャラバン・メイトとして、地域や企業へ発信する立場を目指しています。

子ども食堂（地域の居場所づくり）



地域の居場所づくりに参画し、子ども食堂などの活動を生徒主体で実施しています。地域の声を聞きながら、産業界の協力の元、企画・運営を通して学びを深めています。

マイスター・ハイスクール普及促進事業を通しての成果

・本校の取組を通して、次のような成果が見られました。

①生徒の主体性の向上

課題設定から実践まで、生徒が主体となって行動する場面が増えた。

②学びの社会化・実践化

地域や外部と関わりながら、学びを社会に発信する取組が広がった。

③進路意識・職業観の深化 福祉を将来の進路として具体的に考える生徒が増えた。

マイスター・ハイスクール普及促進事業を通しての成果



成果発表や対外的な発信経験を重ねることで、他者からの評価を前向きに受け止める力が育っている。

課題解決型の学習やゼミ活動を通して、自己理解・他者理解・セルフマネジメントの向上が見られる。

マイスター・ハイスクール普及促進事業を通しての成果

明野高校福祉科の 就職:進学割合 (R6年度) 3 : 7
(R7年度) 2 : 8

※進学・就職の割合は、R6年度39名、R7年度38名の卒業生数を基に算出しています。

・福祉・医療に関わる産業への就職割合

R6年度 → 30% R7年度 → 75%

・福祉・医療に関わる学校への進学割合

R6年度 → 89.7% R7年度 → 90.0%



みえ夢学園高校の特徴

- 定時制（午前・午後・夜間）
- 総合学科



生徒の希望に応じて、介護職員初任者研修と
介護福祉士国家試験の受験資格取得を
選択することができる。

みえ夢学園高校～介護の実践力を育む～

•令和6年度

介護の実践力を育む教育内容を産業界と高校教員が協働で検討・実施し、効果を検証する。

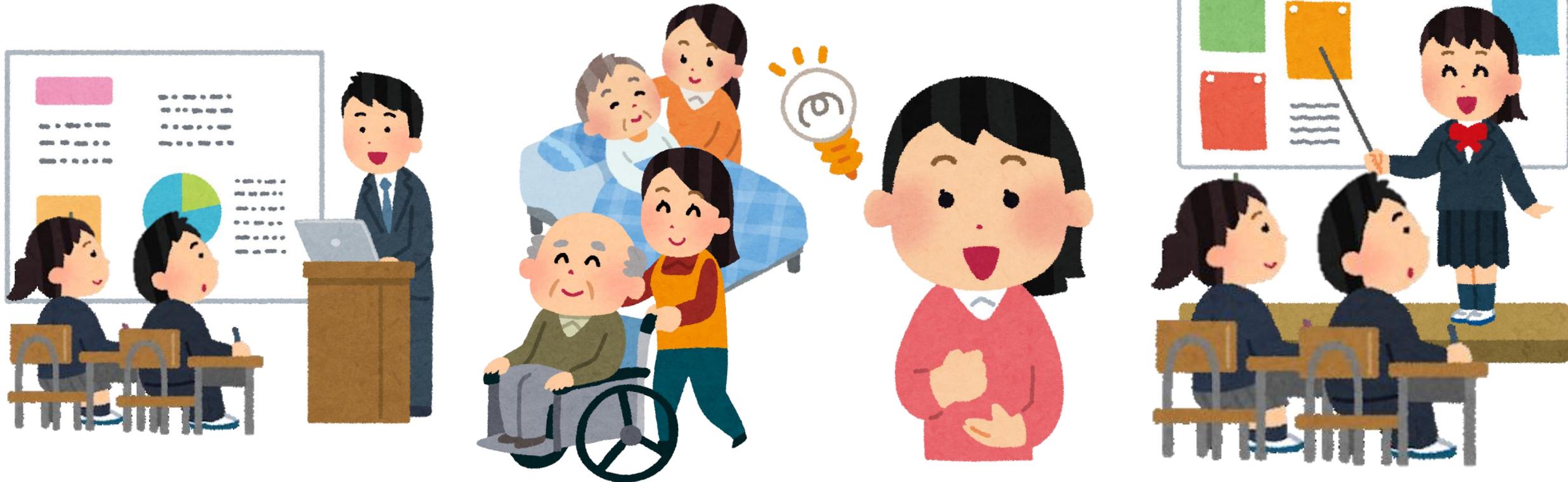
•令和7年度

①生徒が令和6年度に受講した教育内容を参考に、自ら授業を計画し後輩や他校生徒に実施し、効果を検証する。

②令和6年度に実施した授業を見直し、新たに作り直したものを実施し、効果を検証する。

令和7年度取組内容①

令和6年度に介護の実践力を育む授業を受講した生徒が、介護実習の中で身につけたい実践力や後輩に身につけてほしい実践力を一つ取り上げ、授業を計画して後輩に実施し、効果を検証する。令和7年6月と11月に実施。



発表内容の概要 【6月】

テーマ	概要
介護の健康（腰痛予防）	知識と技術で無理なく介護を
継続力	課題を見つけ、目標を立て、実行する
介護技術	知識と技術で安心安全な介護を
当たり前を問い直す	施設に物が多いのは危ないのではなく、普通の生活
コミュニケーションの方法	あいさつ・名前を覚えるのも信頼関係を築くコミュニケーション

発表内容の概要【11月】

テーマ	概要
音楽コミュニケーション	音楽もコミュニケーション
世代の文化を知る	昔のことを知ることでスムーズに関われる
コミュニケーションはどこからどこまで	どこまでもコミュニケーション
なんでそんなにできるの？ リアリティオリエンテーション	季節のものを当たり前に取り入れる
実習生のコミュニケーション	自分なりの質問のあり方を構築する

実施した4年生のコメント

〈要約〉実践の文章化による本質理解。スライド作成を通じた意欲の向上。質問の工夫と重要性の再認識。

- 実習で思ったことや考えたことを改めて文章にしてまとめてみると、何が大切かを知る機会になった。
- 作成するまで浅く考えていたことが、スライドを作ることで、考えが深くなり、もっと介護技術を極めたいと思った。
- 文章にして言葉を整理することで、何を伝えたいのかを考え、作りながら、「こんな取り組みもあるな」とその時の場面をふりかえることができた。
- 質問が難しすぎて、後輩が答えに困っていたので、もう少し簡単にした方が良かったと思った。ただ、質問をすることによって他の考え方が聞けるので、質問は大切だと思った。

受講した3年生のコメント

《要約》コミュニケーションに対する気づき。ケガをしない介護など実践的なスキルの理解。感情コントロールと安全対策への意識向上。

- コミュニケーションをすることが苦手なので、利用者さんへの話のふりかたや音楽や非言語的コミュニケーションを使うなど、利用者さんの関わり方が知れて、コミュニケーションと対応が前よりもよくなると思う。
- 先輩たちが一人ずつ違う種類の話をしていてすごいと思った。自分の視点からだ気づかなかったことを気づかせてくれて、実習がしやすくなった気がする。利用者さんとの接し方やケガをしない体の使い方など、実習でなくても、日常生活でも使えると思った。
- 腰の痛みを軽減する話は、自分も腰を痛くすることがあるので、聞いてよかった。
- 自分があまり目を向けることがなかったことについて先輩が話してくれて、いざ自分がって考えた時にどのように対応したらいいかわかった気がする。
- 自分が不安に思うことに対して、毎回同じような対応をしていたけど、これからは違う視点で考えたいと思った。

令和7年度取組内容②

令和6年度に実施した、介護の実践力を育む授業を見直し、新たに作成、実施し効果を検証した。5月・9月・1月に実施。

令和6年度

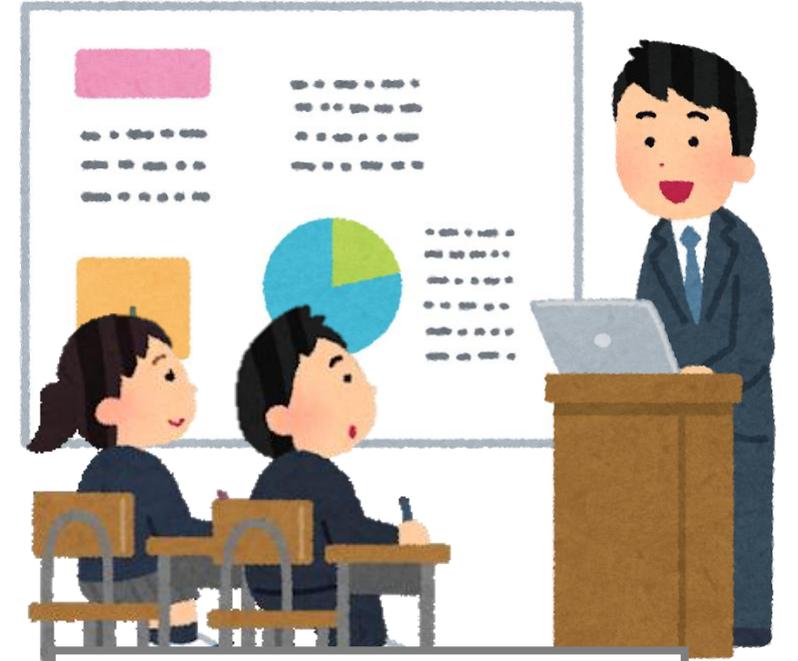


3回実施

令和7年度



①見直し・新規作成



②5・9・1月に実施

令和7年度取組内容②

令和6年度 成果	令和6年度 課題	令和7年度の取組
<p>介護福祉職員・大学教員・高校教員が協議・調査を行い本取組における介護の実践力を「コミュニケーションがとれる・何気ない会話ができる」とし、教材を開発・実施した。</p>	<p>介護の実践力について教員・介護職・大学教員で決めたことにより、生徒が身につけたいものだったのかが不明。</p>	<p>生徒に介護を行う上でどのような力を身につけたいかについてアンケートを4月に実施。3～4年生計10名中8名(3年生においては5名中5名)コミュニケーション等について回答。</p>
<p>生徒は様々な事柄に気づく力や観察力を身につけ、それらを言語化することができた。</p>	<p>提示した写真の情報量が多いことから様々なことに気づく力はついたが、コミュニケーションに特化した授業ではなかった。</p>	<p>写真の内容と問いかけを変更し、授業を重ねることで施設利用者さんをより深く理解できるような構成にした。</p>

令和6年度の課題に対して

令和7年度

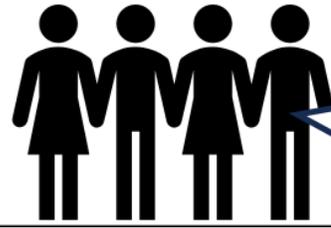
令和6年度



利用者さんとの
関わりに焦点化
できる写真に変更



授業を重ねること
で施設利用者さん
をより深く理解でき
るような構成にした。



クラスメイト・介護職の
意見にふれることで、
多様な見方・考え方を得る

ステップ1	ステップ2	ステップ3
《関係性を築く》 会話のきっかけを作ることが できる。会話ができる。	《信頼関係を築く》 その人の内面や思いに寄り 添う。	《信頼関係を深める》 その人らしさ(生活の質の向 上)につながる情報を得る。

受講した3年生の実習後のアンケート

- コミュニケーションを最初の声かけから学びなおせた。
- 利用者さんの表情を見ることが大切で、食事介助でも、ちょっと動いただけでも、何かが変わるので、利用者さんの表情をよく見るようになった。
- お寿司など目の前にあるものを話題にする。今年の実習でも実践できた。
- 利用者さんの表情とか行動とかを見てどういうコミュニケーションをとるのか、話題をとるのか、考えることができて、実習で表情から何かしたような感じなら話しかけることができた。
- 会話のきっかけをつくる方法が学べたので、実習の時に使えた。
- 利用者さんの表情をよく見ないと気づけない、違いがわからない。実習に行ったときに、食事介助でちゃんと食べているかな?など見ることができるようになった。

全3回の授業を受講した3年生のふりかえり

概要

生徒5人中5人の生徒が観察することについての記述があり、コミュニケーションをとる際に観察することが重要であると結論づけていた。これは個別的かつ抽象的なコミュニケーションのあり方を自ら構築したことを示している。

- 人を知るために観察する。最初から話しかけてもスムーズに話に行けないから、好きなものとか、よくしていることとか、その人にしかないものを見る。考え方を一つに注目するのではなく、本当に一つだけなのかと疑って視野を広げる。そうしたら違う視点や考え方を知れると思う。
- ステップ1~3で共通しているのは、観察の大切さだと思った。観察すると利用者さんは何がしたいのか、どう思っているのかを自分の頭の中で想像しやすくなり、その考えがまとまれば、自分自身が利用者さんに話しかけやすくなると思った。この利用者さんは「こうだ」と決めつけて、強制するのは、信頼関係も築けないので、そこは特に気を付けたい。

全体をふりかえって

《教員》

介護福祉施設・大学教員の方と一緒に授業を作ることによって授業の質（求められている実践力・リアリティ）が向上した。→今後とも協力を仰ぎながら授業を作っていきたい。

《生徒》

授業からオーセンティックな学びを得られ、介護現場で活用できた。

自らコミュニケーションのあり方を構築できた。

後輩に授業をすることで、自身が身につけたい・身につけてもらいたい介護の実践力を考え、その必要性について問い直すことができた。→今後も継続して取組みたい。

《介護施設職員》

授業や生徒の発言を見て、自身の研修のあり方を伝達型から対話型に変えたということや、生徒たちの考えや発想を現場がつぶしてしまわないように、よりよい職場にするために動きだしたり、介護福祉施設同士のつながりから、施設の日課を見直したりということがみられた。→授業を定期的に公開する等関係性をより強固にしていきたい。



伊賀白鳳高校の特徴と取組

平成21年4月に開校した三重県で初めての総合専門高校

伊賀地域の3つの専門高校(上野工業高校・上野農業高校・上野商業高校)が集結し、**工業科・農業科・商業科・福祉科**の**4分野11コース**を設置

地域と企業との協働による新しい人材育成システム(伊賀版デュアルシステム)を導入し、職業人として、社会で活躍できる人材を育成

福祉科は「ヒューマンサービス科」という名称で、「生活福祉コース」、「介護福祉コース」の**2コース**設置



世代を超えた学びの場

高田短期大学の協力を得て、実習先職員の方々と共に「倫理と尊厳」をテーマとした講義を受けた。高校生が大人とのグループワークを通して、多様な意見に触れ、新たな発見や学びを得ることができた。また、職員の方々から、「改めて利用者様の尊厳について考えるきっかけとなり、日々の業務を振り返る貴重な機会となった」というお声もいただき、双方にメリットがある取り組みであった。

福祉ネイル

指先は自然と視界に入り、その度に「ネイルをしてもらった」と思い出すため認知症の方にも有効なレクである。更には女性なら気分が良くなりQOLを高めることにも期待できる。それらの体験をするとともに、福祉ネイルがもたらす高齢者への効果を学んだ。

男女ともに経験し、福祉×異分野との関りについて学び、進路選択の一つとして考えるきっかけになった。



洗髪の講義

旭美容専門学校の協力を得て、洗髪について学んだ。介護と美容における洗髪の目的の違いについて座学を受けた後、実際にドライヘッドの体験をした。

洗髪のポイントを洗髪のプロから聞き、どこをどのように洗うと良いのかや、頭のツボなども併せて学ぶことで、介護における洗髪時でも利用者の方のリラックスにつながる学びとなった。



朝明高校の特徴と取組

普通科・ふくし科の2つの学科を設置
普通科では2年生から、上級学校への進学をめざす「チャレンジコース」、就職を意識した「ビジネスコース」、ラグビー・自転車・レスリングのスポーツ選手を目指す「アスリートコース」の3コースから選択
ふくし科では2年生から「介護福祉コース」と「生涯福祉コース」の2コースから選択

平成21年度介護福祉士養成校として認定される。



地域食堂よってこcafe

地域住民同士で課題解決できるまちづくりを目指すコミュニティグループ「よってこ保々」。この団体が月1回開催している。

人のつながりも、料理づくりも、面倒だけど手間をかけることを大切にしている。

地域の学校として、12月にはイベントの企画、参加呼掛けのチラシ作り、自分たちが育てたさつまいもの提供などで協力。

当日はボランティアとして参加。

福祉施設見学

地域にある聖十字保々在宅介護ディサービスセンターで、さまざまな福祉設備を見学し、福祉・介護の仕事を学習し、福祉の魅力を再発見する。身体が不自由な人でも使用しやすい設備の工夫（例）軽い力で押せるボタン、自動センサー式水道、滑りにくい床、高さを変えられる



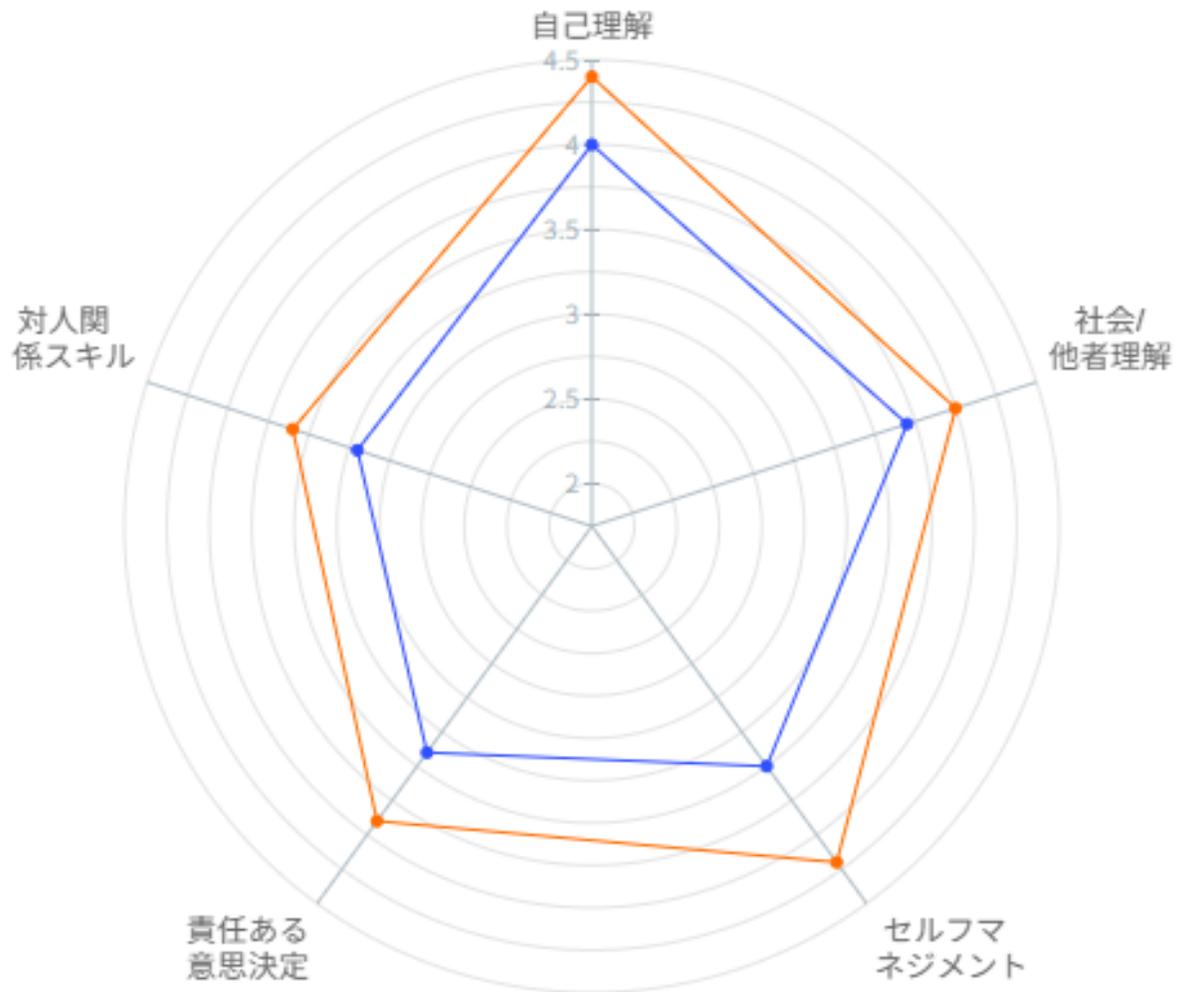
机や椅子など。利用者の身体状況を「考慮した上での設備。利用者が使いやすく、自立生活を意識した設備設計などを見学。



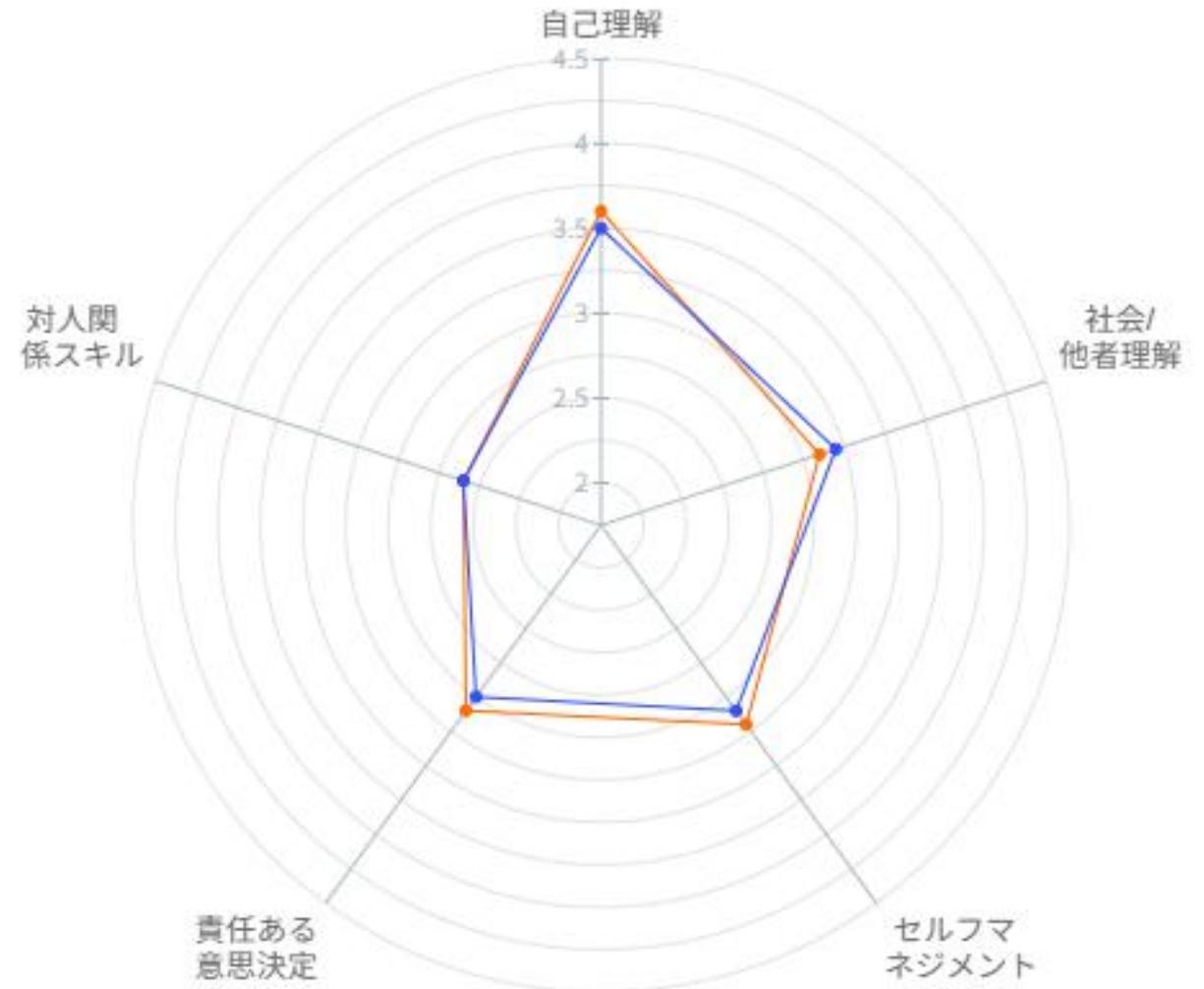
地域の高齢者との交流

地域にある聖十字保々在宅介護ディサービスセンターで、利用者の方と交流会することで、在宅介護や高齢者に関する現状と課題を知る。利用者さんの体の機能に合わせてレクリエーションを企画。また、自分たちで育てたさつまいもを提供して、焼き芋交流会を実施。

エディパスによる評価

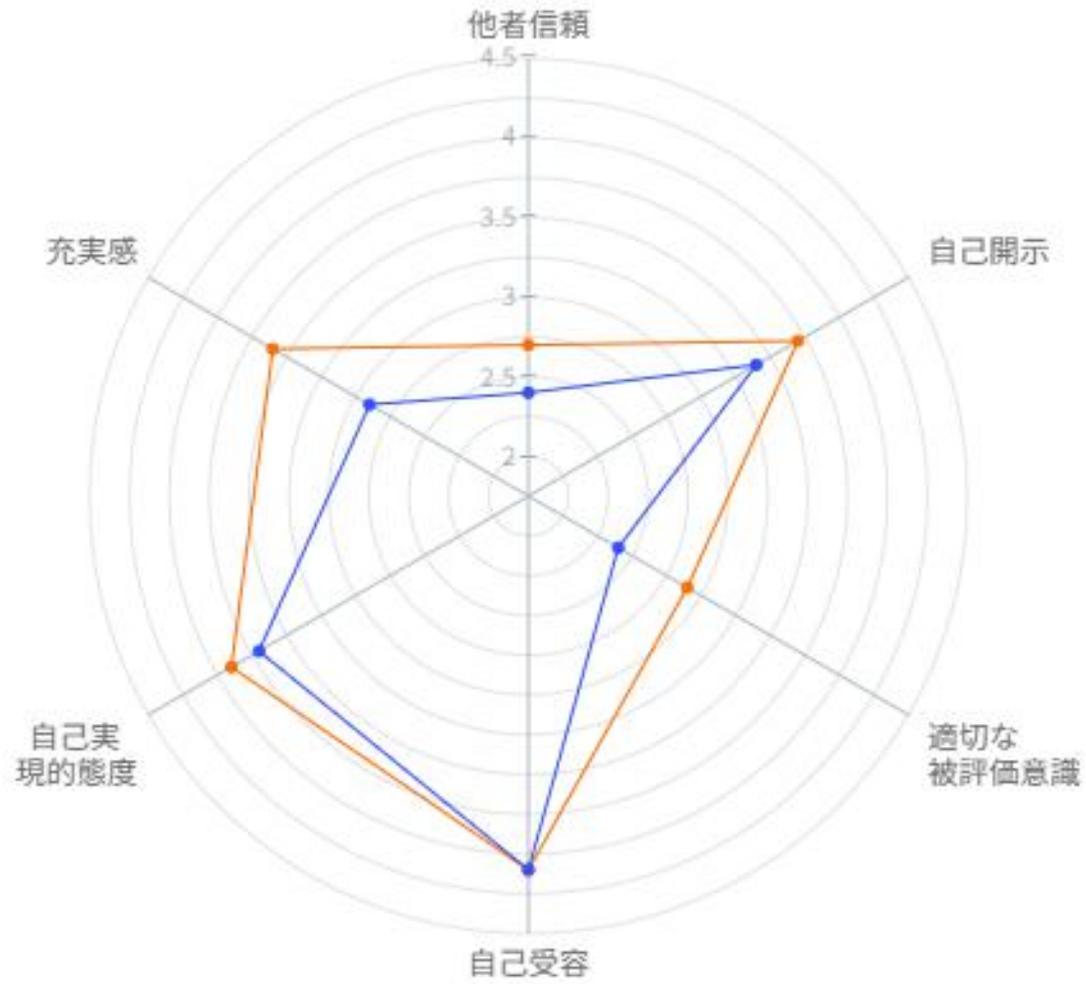


3年生 昨年度と比較

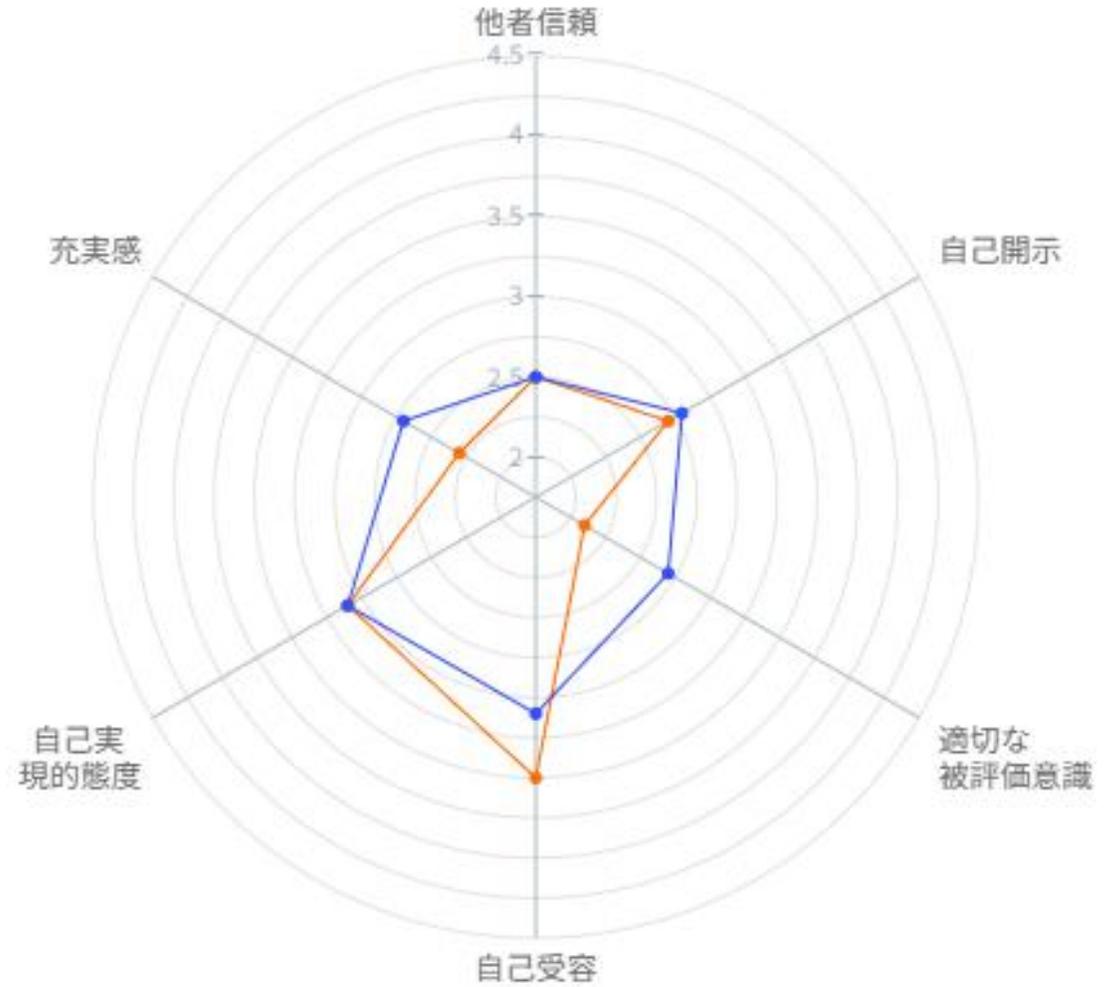


4年生 昨年度と比較

エディパスによる評価



3年生 昨年度と比較



4年生 昨年度と比較

4校連携における目的とねらい

事業における目的

- ・生徒同士の対話を通じた学びの深化
- ・進路意識の向上

連携のねらい

- ・各校の取組や考え方に触れることで、自らの学びや将来の在り方を見つめ直す機会とする



令和7年度 4校連携による主な取組

- ・4校合同による生徒交流・意見交換
- ・産業界や施設と連携した学びの共有
- ・福祉の魅力を発信する取組の実施

これらの取組を通して、
生徒が主体的に学び、発信する力を育む学習環境を意図的に設定した。

産業界と協働した学び — Dream3.0と進めた4校連携の取組 —

【考える】

↳ ポスター制作

【つくる】

↳ 魅力発信動画

【伝える・深める】

↳ 生徒主体の成果発表会



<企業との関わり例>

- ⇒ 企画立案・デザイン・発信方法に関する助言
- 生徒のアイデアを社会に届ける視点の提供
- 4校連携の方策

等



4校連携による学びの変化と広がり

① 生徒の学びの変化

⇒他校・外部との関りにより、自分の考えを言語化し、発信する経験が増加

② 生徒主体の学習への転換

⇒テーマ設定から表現まで生徒が担う場面が拡大

③ 外部評価・生徒の反応（成果発表会事後アンケートより）

⇒視野の拡大、進路意識の向上、発表力の成長が確認された

「他校の取組を知り、視野が広がった」（生徒より）

「自分の進路や学びを考えるきっかけになった」（生徒より）

「主体的に発表する姿に成長を感じた」（外部より）

4校連携による成果と課題

— 三重県マイスターハイスクール事業の視点から —

成果

- ・生徒が主体的に考え、発信する学習が実現
- ・学びの過程と成果を可視化する取組が定着

課題

- ・学校間の進度調整
- ・運営・連携体制の整理

今後の展望

- ・産業界・地域と連携した持続可能なモデル構築

発表内容

①三重県の事業概要と今後の展望

②取組内容の紹介

- ・明野高校・みえ夢学園高校
- ・伊賀白鳳高校・朝明高校
- ・4校で連携した取組

③総括2年間の成果と課題



総括 2年間の成果と課題

成果

企業の方と関わることで、教育活動の幅が広がり、生徒・教員だけでなく、企業の方にも得られるものがあり、学校・地域の教育力が向上した。

課題

やりがいはある一方で企業・学校共に業務の負担は増える。そこで、年度ごとに目的や思いを共有し、その時々に応じた目的や思いを持って取り組む必要がある。

ありがとうございました。



とびだせ！はばだけ！
みえふくっ子
～みえの次代を担う福祉系人材の育成～